

WCOT Capillary Column

For Gas Chromatography

取扱説明書

この度はガスクロマトグラフィー用キャピラリーカラムをお買い上げ頂きありがとうございます。本品はガスクロマトグラフ用分離管として製造されたオープンチューブナー(WCOT・SCOT)カラムです。他の用途には使用しないで下さい。また、下記の注意事項をよくお読み頂いたうえで、ご使用下さいますようお願い致します。

1. 注意事項

- ① 充てんカラムにくらべて Open tubular カラム(WCOT, SCOT)は、液相の担持能力が低いため温度の影響を受けやすく、とくに急激な温度上昇はカラムの劣化につながります。したがってカラムをガスクロマトグラフに装着して分析目的の温度に上げる場合および昇温分析時の昇温は $6^{\circ}\text{C}/\text{min}$ 以下で行ってください。
- ② 本カラムはエージング済みです。そのままご使用ください。
- ③ 装置に、装着後、室温で 10 分程度キャリアガスを流して配管及びカラム内の空気を十分置換した後、分析目的の温度に上げて下さい。初回だけは $10^{\circ}\text{C}/\text{min}$ 以下の昇温速度で行なってください。以後は最高使用温度以下で任意に温度を変更しても、さしつかえありません。
分析終了後キャリアガスを止めた後、再使用される場合、またカラムを再装着された場合も同様の操作を行ってください。
- ④ 本カラムの最高使用温度はラベルに記されています。カラム恒温槽の温度をそれ以上には絶対に上げないで下さい。
- ⑤ カラム恒温槽の温度が 70°C 以上の場合、キャリアガスは絶対に止めないで下さい。
キャリアガスが完全に止まりますと、ごく短時間でもカラムに致命的な損傷を与えることがあります。
- ⑥ 分析終了後、カラム恒温槽の温度を下げることは短時間にできますが、注入口および検出器の温度が下がるにはかなりの時間を要します。キャリアガスを止める場合は注入口および検出器の温度が 100°C 以下になっていることを確認してから行って下さい。
翌日も分析に使用される時は、電源や水素ガスを止める必要がありますが、キャリアガスは流したままにされることをお勧めします。
- ⑦ 長期間ご使用されない時は、カラム両端にセプタムを突き刺しカラム内部に空気が出入りしないようにして冷暗所で保管してください。次に使用される際にはカラムの中にセプタムの破片が残っていないかどうかを目視で確認してください。もし、セプタムの破片がカラム端内にある場合は、先に説明した方

法でその部分をカットしてください。

キャピラリーカラムは厳しい品質管理のもとで製造、梱包、出荷を行っておりますが、万一不具合がございましたら現品受取後14日以内に弊社までご連絡下さい。但し、寿命に関する事項や取扱い注意事項に従わないで使用し、劣化したものにつきましては保証いたしかねます。



50-2 Kagekatsu-cho, Fushimi-ku, Kyoto 612-8307 JAPAN

TEL 075-621-2360 URL <https://shinwa-cpc.co.jp>